

## 戸木田嘉久先生と私

芹澤 寿良

労働組合運動のなかで働いていた私は、一九五九年から六〇年にかけてたたかわれた、いわゆる三池闘争の支援オルグとして現地に参加した経験をもっているが、この闘争直後に出版された戸木田先生の『労働組合はどう変わるか——三池闘争をへて』（三一書房）を読んだ時の感動を今でも忘れることはできない。

五〇年代後半から戦闘力を発揮しつつあった労働組合運動の弱点あるいは欠落していたのが、広範な民主的諸勢力との統一のなかでたたかうということであった。たとえば、産業別統一闘争の強化を通して企業主義的運動を克服しつつあった鉄鋼労連は、一九五七年と一九五九

年に賃金闘争において長期ストライキで鉄鋼独占資本と対決し、結局「一発回答」への屈服を余儀なくされたが、その敗因は組合民主主義を軽視した機械的な闘争指導などいろいろ指摘することができるとはいえ、もっとも重要なことは、わが国の指導的な独占資本であった鉄鋼独占資本を社会的政治的に包囲していくという戦略的な指導と闘争が追求されなかったことである。

わが国の独占資本との対決におけるこのことの決定的な重要性を当時もっとも戦闘的であった炭労三池のたたかいの総括をとうして明確に教えてくれたのがこの本であった。ほぼ同じ頃出版された故中林賢二郎先生の『学習テキスト・統一と団結』（学習の友社）も当時のわが国労働組合運動の根本的弱点を鋭く指摘し、あらためて「統一と団結」の重要性を強調していたものであるが、私はこの二冊を小冊子とはいえ名著であり、労働組合運動の実践部隊に働く者の必読書として広く書記や活動家に勧めたものである。

ところで、私が戸木田先生と直接お会いしたのは、たしか『現代の合理化と労働運動』（労働旬報社）の出版の打ち合わせのため上京された時であった。その編集にあった友人と一緒に先生からいろいろ労働組合運動の諸問題についてご意見を伺ったが、先生の労働運動への情熱とエネルギーな仕事への意欲、誠実なお人柄に感服したことが思い出される。

第二次世界大戦後のわが国における労働組合運動の特徴の一つは、組合書記という職業集団が形成され、また労働組合運動とともに歩もうとする調査研究機関が設立されたことであるが、

私自身もこうした分野で長い間生活してきただけに同じ生活経験をもつ者に特別の親密感をもつ。その人々が労働組合運動への情熱とロマンをもち、献身的な生活姿勢を貫いているからである。私がお二人の先生の本に強く引き付けられたことにはこうした面への共感の気持ちも働いていたように思う。

『現代の合理化と労働運動』は、戸木田先生もコメントされているように職場の戦闘的な労働者と組合活動家のために「現代の資本主義的合理化をめぐる理論・分析・闘争の全分野を包括的に整理し一冊の本」にまとめたものであるが、私の知るかぎり「合理化」をめぐるイデオロギー闘争の有力な理論的武器として広く活用されている。私もこの本から合理化問題の基本理論を学んだ。

その後、先生は立命館大学に移られ、労働問題の研究・教育者としての道を歩まれることになったが、また全国的な労働者教育運動に参加され、私はそのなかで先生とご一緒する機会が多くなり、とくに労働組合運動の科学的理論の労働者にたいする教育と普及の在り方について教えていただいた。この関係は今日まで続いているが、先生の労働者教育運動における理論的指導の面での貢献には大きなものがあると思っている。先生は、学習活動家にたいして理論的原点を重視し、現状の分析と把握においては広い視野に立つことの重要性を強調されてきた。私もこの点は非常に大切なことだと思っている。

先生は、研究教育のお仕事以外に大学の管理運営の面でも長い間重責を担われたが、そうし

たなかでも研究業績を積み、また労働組合運動の階級的民主的潮流に理論と政策の面で積極的に協力された。

この冊の先生の代表的な著作が『現代資本主義と労働者階級——現代資本主義分析5』（岩波書店）であることはよく知られている。これは先生の一九八〇年代初頭までの理論と現状分析の集大成というべきものであるが、他の研究者から出されている批判的注文もあり、私としても現代日本の労働組合運動の総体的な把握と綿密な分析を基礎にそれらに積極的に応えていただきたいと思っている。ともかく、先生のこうした積極的で粘り強い姿勢と生活は、私にとつてまさに鑑であり大切な生きかたを示していると思っている。

労働組合運動の戦後史的転換期のなかで、先生が確信しておられる未来を担う階級的民主的潮流の発展のために、理論的・政策的な指導力を一層発揮していただくことを心から期待したいと思う。

（高知短期大学教授）

（『戸木田嘉久著作集』第1巻月報、1988年12月）

◇現代労働組合研究会のHPへ（TOP）

<http://e-kyodo.sakura.ne.jp/roudou/111210roudou-index.htm>